様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月　１ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２４７４

研究課題名（和文）近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰資料の収集と研究

研究課題名（英文）Collection and study of Basho honoring materials in the late modern Kyoto Haidan

研究代表者
竹内　千代子（Takeuchi, Chiyoko）

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：００３３０３８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：近世俳諧資料の収集は、所蔵者の高齢化、俳諧に対する関心の薄さなどから年々困難となっている。本研究では、閲覧が困難な資料を中心に写真撮影を行い、翻刻や解題を付して公表した。併せて、WEB公開も行った。近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰資料の中心は、魁となる五升庵蝶夢の俳諧と芭蕉堂花供養会の俳諧である。『芭蕉堂門人録』の発表は新情報であり、研究の基礎となる資料である。また、花供養会に関する一連のシステムを考察し、近世後期の京都俳壇を支えた柱の一つである事を考察した。さらに、蝶夢や芭蕉堂に関わる周辺の俳諧資料では、『秦夫草』『古巣発句集』『古巣俳諧集』など多角的に収集し、一部については考察を加えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近世俳諧資料の収集は、文学研究の基礎的な本文校異に必要不可欠であり、それらが失われつつある現状から、学術的意義は大きい。さらに、これらの資料や研究を刊行物やWEBなどによって公開することは、社会的意義があると考える。本研究成果の中心は、洛東芭蕉堂の建立と花供養会の半世紀以上に及ぶ継続に関する資料の収集である。近世後期京都俳壇の中心である俳諧撰集『花供養』に具現された芭蕉顕彰の動きは、全国の俳人を巻き込んで展開している。松永貞徳の俳諧が強い京都俳壇において、芭蕉俳諧を発展させたのは地方俳人であったことは特筆に値する現象で、俳諧史の見直しも視野に入れなければならない。

研究成果の概要（英文）：The collection of modern haiku materials has become difficult year by year due to the aging of the owners and the lack of interest in haiku. In this research, we photographed the materials that were difficult to read and published them with reprints and annotations. At the same time, the website was opened. The center of the Basho commendation materials in the late modern Kyoto Haidan is Goshoan Chomu and Basho-do Hanakuyou. The announcement of "Bashodo Monjinroku" is new information and is the basis of research. In addition, we considered a series of systems related to the Hanakuyou service and considered that it was one of the major pillars that supported the Kyoto Haidan in the late modern period. In addition, in the haiku materials around Chome and Basho-do, I collected various things such as "Hataogusa", "Koso Haiku collection", "Koso Haikai collection", and added some consideration.

研究分野：俳諧

キーワード：俳諧　松尾芭蕉　近世後期京都俳壇　芭蕉顕彰俳諧　日本近世文学　日本文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近世後期京都俳壇は、寛政五年の芭蕉百回忌の前後から、従来の松永貞徳の流れを汲む貞門の影響よりも芭蕉の影響がようやく強くなる。これは江戸や大坂が先に芭蕉の俳諧に傾倒していた状況とは異なる。芭蕉の俳諧の影響の強い蕉門俳諧については後発の京都俳壇であったが、最初に真摯な芭蕉顕彰の活動を展開したのは、五升庵蝶夢であった。高弟井上重厚によってなされた落柿舎の再興は、蝶夢の意向で、芭蕉顕彰のモニュメントとしての役割を果たした。重厚は落柿舎の主、向井去来の外戚の末裔であり、蝶夢は去来ゆかりの地並びに人を探した結果であると推測される。それは、重厚がすでに貞門俳諧において活躍していたからである。また、京都における芭蕉顕彰のモニュメントのひとつである芭蕉句碑や芭蕉庵は郊外に集中しており、市中にはないことが留意される。その後、洛東の芭蕉堂花供養会の隆盛によって、芭蕉顕彰の俳諧は、一気に全国を牽引することとなるが、やはり郊外である。芭蕉顕彰の活動は郊外から成立していくのである。近世後期京都俳壇の中心となる芭蕉堂の俳諧資料は、現在の芭蕉堂の所有者が俳諧に特段の興味を持っている人ではないため、多くの俳諧資料が散逸しているようであった。このことは、事前の調査から判明していたが、辛うじて残された資料の一つに『芭蕉堂門人禄』があった。研究開始時、最も喫緊の課題として、これを写真撮影、翻刻、公開(WEB 公開を含めて)することがあった。花供養会の撰集『花供養』の全翻刻は、近世後期京都俳壇の様相を研究する第一級資料の一つであり、長期的な課題である。研究開始当初は、一部の翻刻についての WEB 公開を開始しており、順次公開していく準備が整いつつあった。定期的な研究会を持ち、立命館大学アート・リサーチセンターとの共同研究の用意もあった。

近世後期京都俳壇における落柿舎再興は、京都俳壇において芭蕉顕彰を定着させる象徴としての役割がある。このため、落柿舎の系譜を整理し、再興者の井上重厚の年譜事項から、京都俳壇の変遷が究明されることが期待できる。研究開始当初、発刊が予定されていた「蝶夢書簡集」の調査を加えて、重厚年譜の補筆による完成を目指した。蝶夢書簡集の刊行状況に影響されるところである。

近世俳諧資料の収集は、所蔵者の高齢化、俳諧に対する関心の薄さなどから年々困難となっている。とりわけ、個人蔵の資料の収集は喫緊の課題である。一部については、資料の紹介がされていたが、当時の未熟な写真撮影機器などのため、充分な資料収集とは言えない状況もあった。そこで、研究開始当初は、写真撮影が可能で、重要なものから順次取り組む計画を立てた。そのなかのひとつ、二条家俳諧資料の残る奈良の名称寺の調査機会が得られる交渉が進んでいたので、早急に実施する計画であった。同寺の資料は、個人の未公開のものであり、遠方でもあり、多くの機会は得られない見通しであったので、最優先の課題にした。二条家俳諧資料は、宗匠梅通のものが中心で、二条家俳諧の作法の一部が知られる資料については、写真撮影を行い、今後の研究の基礎の一つとなる。ここを出発点として考察を深める段階である。

また、その他の個人蔵書がある堀家、畑家の俳諧資料も継続的に収集の必要があり、両家との関係も良好であり、両家の都合を勘案して実施する準備があった。これらの俳諧資料を写真撮影し、学会、講演会、WEB 公開などによって、広く公開していく準備をしていた。畑家の俳諧資料は、淀藩士の俳諧の実態を知る貴重なもので、俳諧史に加筆される事項の考察が期待される。両家ともに所蔵管理をされている方は高齢であり、後継者の準備をされてはいるものの特段俳諧に興味があるとは言い難く、成果を公開するなどして理解を得たいところである。

２．研究の目的

近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰資料の収集は、所蔵者の高齢化、俳諧に対する関心の薄さなどから年々困難になっていく状況にあり、これらの収集を加速させ、それらを研究に資するべく公開し、研究することを目的とする。資料収集の成果から、近世後期京都俳壇の独自の芭蕉顕彰俳諧の実態を考察し、全国に展開していく芭蕉堂花供養会の機能を中心に実証する。

近世後期京都俳壇は、松永貞徳の貞門の影響が大きいのであるが、次第に芭蕉の蕉門の影響が大きくなっていく。最初に芭蕉顕彰を提唱したのは、蝶夢である。彼は京都にあって、近江義仲寺の時雨会を主催しながら、石山寺に幻住庵を再興し、京都嵯峨には高弟重厚をして落柿舎を再興させ、洛東双林寺において美濃派の墨直会を一時期継承した。これらの活動は、俳諧史に特筆されるものである。ただ、これをさらに発展させ全国に展開したのは、洛東芭蕉堂の花供養会である。芭蕉堂初世の闌更は、蝶夢の一連の俳諧活動に加わり、その方法を会得していったようである。また、闌更は二条家俳諧を展開しているが、幻住庵に関わる暁台や、蝶夢と後に袂を分かつ青蘿と共に初世の宗匠、花の本宗匠としても活動する。闌更のこれらの芭蕉顕彰の活動は俳諧史に加えられる事項であることを考証する。

芭蕉顕彰の俳諧資料は、個人蔵のものがあり、本研究では、堀家、畑家、名称寺のものを中心として調査する計画を立てた。それぞれが近世後期京都俳壇を取り巻く個々の俳人の蔵書なので、図書館や資料館の収集とは異なる一面が知られる。堀家は秦夫、畑家は吟風、名称寺は二条家俳諧宗匠梅通の資料が纏まっており、それぞれ京都俳壇との関わり方の考察ができる。堀家の

俳諧資料は、南山城寺田の庄屋職である秦夫のもので、近世後期京都俳壇の芭蕉顕彰の裾野を支えるものである。また、畑家の俳諧資料は、淀藩士の俳諧の実態を知る好資料であり、芭蕉顕彰との関りも知られる。二条家の俳諧資料は、公家との関係を知る資料である。公家との関りは京都俳壇の一特徴である。このような周辺からの資料を収集し、考察を深める。

３．研究の方法

当初は、(1) 落柿舎の再興とその後の系譜の調査と俳諧資料の公開。(2) 洛東芭蕉堂関係の俳諧資料の収集と公開、及びその考察。(3)二条家俳諧資料の収集と公開。(4) 堀家、畑家の俳諧資料の収集と公開。以上の四点を柱として研究を進める計画を立てた。

(1)　落柿舎を再興し、芭蕉顕彰俳諧を進めた井上重厚の年譜の完成を目指す。年譜は既に発表しているが、その後の調査により追加の補筆が必要となっている。さらに、必見の蝶夢の書簡集が未刊であり、刊行され次第取りかかることとする。

(2)　計画に従って「芭蕉堂門人禄」の写真撮影と印刷物、WEB 公開をする。また、花供養会の俳諧撰集『花供養』の翻刻は、従前より継続しているところであるが、継続して研究会を持ち、WEB 公開を行う。翻刻については全冊の完了を目指し、校訂作業を加え、順次公開していく。全冊の WEB 公開と印刷物による公開を目指すところである。花供養会のシステムを検証し、全国に展開していく要因を考察する。全国に展開していく現象については、俳諧マップの作成を試み、俳人の参加状況を、年次を追って推移していく様相を地図上で視覚的に提示する。

(3)　二条家俳諧資料の収集としては、写真撮影を行う計画であるが、所蔵場所が遠方であることと、所蔵者の意向で調査を何度も行うことが困難な状況から、資料収集は短期に出来る範囲で行う。事前の調査で梅通宗匠の資料が所蔵されていることが判明しているので、これを中心に調査する意向である。

(4)　個人蔵の俳諧資料の収集としては、従前より実施していた堀家と畑家の協力を得る。所蔵者の都合に合わせて、適宜重要な資料から写真撮影を行う。一部の資料については、所蔵者の都合に合わせて、複数回に分けて写真撮影を行う計画であるが、幸い協力的で、資料を借り出し、ある程度まとまった量の撮影が可能である。指定の業者に委託するものもある。このようにして収集した資料をもとに堀家の『秦夫草』を公開する。なお、城陽市歴史民俗資料館の企画展の講演会で成果の一部を発表したが、今後も講演会による成果発表の機会も多く得たいと考えている。また、畑家の俳諧資料は従前から継続して調査中であるが、蔵書目録の作成が終了した段階で、その成果の一部を俳文学会第七一回全国大会で発表したが、次回の俳文学会は京都会場のため再度発表する計画である。

４．研究成果

本研究の成果は、芭蕉顕彰資料の収集と公開が進み、その結果「芭蕉顕彰俳諧」という俳諧理念を提示したことにある。本研究は、「芭蕉顕彰俳諧資料」の収集と研究が目的であったが、資料を収集する中で、「芭蕉を顕彰する俳諧資料」と、「芭蕉を顕彰しながら各自の俳諧を展開する資料」との二つがあるという認識に至った。芭蕉を顕彰する俳諧を提示したのは、蝶夢である。彼は芭蕉自身や、芭蕉の唱えた俳諧を追求して、芭蕉を顕彰する。芭蕉の伝記ともなっている『芭蕉絵詞伝』の編纂と刊行、芭蕉俳諧の刊行、芭蕉句や当時の句を季題別に編纂した類題句集は新しい形式で、これを編纂し刊行、『去来抄』などの俳論集の刊行にも積極的であった。また、芭蕉墓のある義仲寺の時雨会を主催し、去来の落柿舎を再興、近江石山の幻住庵を再興、義仲寺に翁堂を建て、芭蕉句碑の建立にも尽力した。

一方、その蝶夢が提唱した芭蕉顕彰のセレモニーやモニュメントを基に新機軸で展開したのが、花供養会である。これは、芭蕉を顕彰しながらも当代の、独自の俳諧活動を推進していくのである。両者は、真摯な芭蕉顕彰と、芭蕉を顕彰しながらも独自の俳諧活動を展開するという相違がある。この二つの相違によって、本研究で考察した資料を分類すると、次のようになる。

Ⅰ　芭蕉顕彰の俳諧資料　　―『古巣発句集』、『古巣俳諧集』、落柿舎の再興、井上重厚、時雨会、幻住庵の再興、墨直会(蝶夢の主催した部分のみ)―

Ⅱ　芭蕉顕彰俳諧の資料　　―『芭蕉堂門人禄』、花供養会、二条家俳諧(花の本俳諧)、『秦夫草』―

以下に具体的に述べる。近世後期京都俳壇における芭蕉顕彰資料の中心は、魁となる五升庵蝶夢の俳諧と、それを基に展開させた芭蕉堂花供養会の俳諧である。蝶夢は、京都俳壇において、最も早く、熱心に、真摯に芭蕉顕彰活動を具体的に進めた。それは、芭蕉に関連した句集などの刊行、落柿舎の再興、義仲寺の時雨会の主催、近江石山の幻住庵の再興などに結実している。本研究では、周辺資料の成果として、『野風呂記念館本「古巣発句集」影印 翻刻と解題―付 西尾市岩瀬文庫本「古巣発句集」校異―』(2019 年 3 月)、『渡辺去何編「古巣俳諧集」影印と翻刻』(2020 年 3 月)を資料収集し、考察を加えた。『古巣発句集』『古巣俳諧集』は、蝶夢の高弟で、近江住の去何の俳諧を知る資料であるが、芭蕉顕彰の展開において、京都俳壇は近江俳壇との関係が密接であり、蝶夢門の動きは注目に値する。

蝶夢の一連の芭蕉顕彰の活動は、後に芭蕉堂の花供養会に結実し、芭蕉顕彰俳諧という新しい概念を生む契機となる。本研究に関係した成果は次の通りである。第一に、『芭蕉堂門人録―影印と翻刻―』(2018 年 3 月)の発表は新情報であり、研究の基礎となる資料である。散逸の恐れ

が大きい芭蕉堂の重要な資料の写真撮影、翻刻、印刷、WEB 公開は成果の一つである。第二に、花供養会に関する一連のシステムを検証し、近世後期の京都俳壇を支えた柱の一つである事を考察した。これは、『近世後期京都の芭蕉顕彰俳諧資料　芭蕉堂歴世の俳諧と花供養』(2019 年 12 月)にまとめて印刷、WEB 公開した。第三に、芭蕉堂に関わる周辺の俳諧資料として、『堀秦夫句稿「秦夫草」翻刻と南山城の俳諧』(2019 年 2 月)を資料収集し、考察も加えた。『秦夫草』は、闌更との交際から芭蕉堂の開設期の特定が出来る資料であり、近世後期京都俳壇を中心とした近隣の宗匠たちとの交際が知られる好資料である。

蝶夢から闌更への俳諧活動を一覧表に示しておく。

蝶夢の墨直・時雨会　⇒　闌更の花供養会　　注:×　不開催

年月日		墨直(東山双林寺墓地)　3 月 12 日	時雨会(義仲寺・翁堂)　10 月 12 日	花供養会(東山双林寺・芭蕉堂)3 月 12 日
正徳 1.3.12	1711	各務支考(美濃派)始め		
宝暦 11.3.12	1761	三四坊二柳(加賀の人)		
宝暦 12.閏 4.12	1762	二柳		
宝　暦　13.10.12(時雨会)	1763		五升庵蝶夢(京の人)始め	
		この頃迄が盛会		
明和 2.3.12(墨直)	1765	五升庵蝶夢(京の人)	×	
明和 3.3.12(墨直)	1766	蝶夢	蝶夢	
明和 4.3.12(墨直)	1767	蝶夢	×	
明和 5.3.12(墨直)	1768	蝶夢	蝶夢	
明和 6.3.12(墨直)	1769	蝶夢	蝶夢	
明和 7.3.12(墨直)	1770	蝶夢	蝶夢	
明和 8.3.12(墨直)	1771	五竹坊(美濃派)	蝶夢	
天明 6.3.12(花供養会)	1786	×	×	芭蕉堂(高桑)闌更(加賀の人)始め
↓		↓ 中略	↓ 中略	↓ 中略
天保 5.10.12(時雨会)	1834	×	閑斎・近世最終<71 年間・64 冊平均 19 丁>	芭蕉堂(成田)蒼虬
慶応 2.3.12	1866	梅古・近世最終<155 年間・22 冊平均 13 丁>		芭蕉堂(河村)公成
明治 2.3.12	1869			芭蕉堂(内海)良大・近世最終<81 年間・54 冊平均 47 丁>

上記の一覧表からは、蝶夢が義仲寺の時雨会を主催し、京都の墨直へと拡張を試みたものの頓挫した状況が知られる。蝶夢の限界は、芭蕉を真摯に顕彰することに傾きすぎて、より多くの人々の参加を可能にする工夫に欠けていたことである。京都移住後の間もない闌更は、それらに参会し、後の花供養会に結実させる。即ち、芭蕉を顕彰し、採用すべき活動は踏襲しながら、多くの人々に受け入れられる自由度を拡大し、蝶夢の行き詰まりを克服したといえる。この自由度の考察が、近世後期の芭蕉顕彰俳諧の考察でもあり、今後の課題とする。

活字発表では、大阪俳文学研究会会報「俳文学報」第 51 号(2017 年 10 月)に、「松岡青蘿の伝書『俳諧点之格』考」がある。青蘿は若い時に、蝶夢門であった。その後、闌更と共に二条家俳諧宗匠として活躍する。青蘿の俳諧活動は播州周辺の地方であるが、京都俳壇との関係が密接で

あり、芭蕉顕彰俳諧の考察の対象となる重要人物の一人である。この伝書からは、青蘿の地方俳人への指導の一端が知られ、地方俳人を取り込む俳壇経営の手法が考察できた。また、京都俳文学研究会会報「俳文学研究」第70号(2018年10月)に、「花屋庵鼎左の点帖と備後」がある。大坂の花屋庵鼎左は、芭蕉顕彰俳諧の担い手の一人でもある。この点帖からも、地方俳人を取り込む俳壇経営の一端がしられる。これらの芭蕉顕彰俳諧は、芭蕉の俳諧を真摯に追求した蝶夢門の動きとはやや異なる流れが生まれつつあったと言える。今後の考察課題とする。

学会発表では、俳文学会第七一回全国大会において、「淀藩士の俳諧と芭蕉顕彰」と題して口頭発表を行った。淀藩士は藩士(上級武士)間で俳席を設け、点印を持ち、独自の俳諧運営が可能な状況であり、富原支雪、畑吟風を中心としていた。しかし、京都俳壇の俳仙堂、芭蕉堂との交流も盛んであった。因みに、吟風はみのむし庵とも号し、芭蕉への傾倒は深かった。武士層の芭蕉顕彰俳諧の広がりについては、今後の課題とする。

講演会発表では、城陽市歴史民俗資料館主催の第85回文化財講演会、「令和元年度秋季企画展<寺田村の春夏秋冬―堀家の古文書にみる村の暮らし―>」において、「寺田連衆と蕪村―五文字に置いて待つ時鳥―」と題して講演した。堀家の俳諧資料である堀秦夫句稿を中心として京都俳壇との交流を紹介し考察した。蕪村も芭蕉を慕っていたことは周知のことであるが、蕪村の芭蕉への傾倒と蝶夢の芭蕉顕彰とでは異なることについても言及した。

近世俳諧資料の収集は、文学研究の基礎的な本文校異に必要不可欠であり、それらが失われつつある現状から、学術的意義は大きい。さらに、これらの資料や研究を印刷物やWEBなどによって公開することは、社会的意義があると考える。本研究成果の多くは、洛東芭蕉堂の建立と花供養会の半世紀以上に及ぶ継続に関する資料の収集である。近世後期京都俳壇の中心である俳諧撰集『花供養』に具現された芭蕉顕彰俳諧の動きは、全国の俳人を巻き込んで展開している。松永貞徳の俳諧が強い京都俳壇において、芭蕉顕彰俳諧を発展させたのは地方俳人の闌更(加賀の人)らであったことは特筆に値する現象で、俳諧史の見直しも視野に入れなければならない。

本研究では、閲覧が困難な資料を中心に写真撮影を行い、翻刻や解題を付して活字、学会発表を行った。併せて、WEB公開も実施した。WEB公開については、立命館大学アート・リサーチセンターとの協力により、次のURにアップしている。

https://www.arc.ritsumei.ac.jp/archive01/theater/thml/hanakuyo/index.html

『花供養』画像・翻刻閲覧サイト

○ご利用にあたって

このデータベースは、立命館大学アート・リサーチセンター櫻井文庫及び舞鶴市糸井文庫に所蔵されている『花供養』の画像・翻刻データを閲覧できるようにしたものです。

アート・リサーチセンターの所蔵品については、個人利用・研究利用に限ります。営利目的での利用については、かならずアート・リサーチセンター事務局までご連絡ください。

閲覧はこちらから

翻刻凡例

図録「花供養と京都の芭蕉」の閲覧

『芭蕉堂門人録―影印と翻刻―』の閲覧

「堀秦夫句稿『秦夫草』翻刻と南山城の俳諧」の閲覧

『野風呂記念館本『古巣発句集』影印 翻刻と解題 ―付 西尾市岩瀬文庫

『渡辺去何編『古巣俳諧集』 影印と翻刻』の閲覧

『近世後期京都の芭蕉顕彰俳諧資料 芭蕉堂歴世の俳諧と花供養』の閲覧

立命館大学アート・リサーチセンター

Copyright (c) 2010― Art Research center, Ritsumeikan University All Rights Reserved.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 竹内千代子	４．巻 70
２．論文標題 花屋庵鼎左の点帖と備後	５．発行年 2018年
３．雑誌名 京都俳文学研究会会報「俳文学研究」	６．最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 竹内千代子	４．巻 51
２．論文標題 松岡青蘿の伝書『俳諧点之格』考」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 大阪俳文学研究会会報「俳文学報」	６．最初と最後の頁 32-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） ISSN 2188-1340	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 竹内千代子
２．発表標題 淀藩士の俳諧と芭蕉顕彰
３．学会等名 俳文学会第七一回全国大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計5件

１．著者名 竹内千代子	４．発行年 2020年
２．出版社 私家版	５．総ページ数 91
３．書名 渡辺去何編『古巣俳諧集』影印と翻刻	

1．著者名 竹内千代子	4．発行年 2019年
2．出版社 私家版	5．総ページ数 99
3．書名 近世後期京都の芭蕉顕彰俳諧資料　芭蕉堂歴世の俳諧と花供養	

1．著者名 竹内千代子	4．発行年 2019年
2．出版社 私家版	5．総ページ数 99
3．書名 堀秦夫句稿『秦夫草』翻刻と南山城の俳諧	

1．著者名 竹内千代子	4．発行年 2019年
2．出版社 私家版	5．総ページ数 115
3．書名 野風呂記念館本『古巣発句集』影印 翻刻と解題	

1．著者名 竹内千代子	4．発行年 2018年
2．出版社 私家版	5．総ページ数 71
3．書名 芭蕉堂門人録―影印と翻刻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考